

第1回松江市中学校部活動地域展開推進協議会 会議録

1 日 時 令和8年7月15日（水） 14時～15時50分

2 会 場 松江市役所本庁舎5階 第2常任委員会室

3 委 員 12名全員出席

松江市 14名

4 開 会

○事務局

ただいまより第1回松江市中学校部活動地域展開推進協議会を始めます。私は本日進行役を務めさせていただきます、松江市教育委員会学校教育課の福島と申します。よろしくお願いいたします。着座にて失礼します。では、はじめに資料の確認をします。本日お配りした資料は、まずこちらの次第、そして資料①として松江市立中・義務教育学校における学校部活動の地域展開・地域連携に係る方針、そして資料②として松江市中学校部活動競技別所属一覧と書いてあるこちらのもの、そして資料③としてアンケート項目と書いてある資料、そして資料④として、タイトルが松江市中学校部活動の地域展開に係る合同練習会の実施について。さらに参考資料としまして、県、県教育委員会が作成しました部活動地域展開リーフレットでございます。足りない資料があれば申告していただければと思います。よろしいでしょうか。

では、初めに委嘱状の交付を行います。本来なら教育長からお一人お一人に交付すべきですが、委員の方々の机上に配布しております。どうぞご確認の上、お納めください。

それでは開会にあたりまして、青木教育長からご挨拶申し上げます。

○青木教育長

皆さん、こんにちは。この度は松江市中学校部活動地域展開推進協議会の委員へのご就任をご快諾いただきまして、誠にありがとうございます。また、本日はご多用の中、そして暑い中、会議への出席をいただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

部活動の地域展開につきましては、国が令和7年12月にガイドラインを公表し、島根県は令和7年3月に方針を策定されました。本市におきましては、令和6年度より松江市中学校部活動のあり方検討委員会を設置し、議論を重ね、本年3月に松江市立中・

義務教育学校における学校部活動の地域展開地域連携に係る方針を策定したところでございます。本方針では、国の方針に沿いまして、令和8年度から令和13年度までを改革実行期間と定め、まずは休日の学校の部活動について、原則全ての活動を地域展開へ移行することを目指しております。一方で、この地域展開を実現するためには、受け皿となる団体や指導者の確保、活動場所への移動手段、地域クラブ活動の認定制度の構築など多くの課題がございます。本協議会では、こうした課題への対応も含め、休日の学校部活動の地域展開の実現に向けて協議を進めてまいります。委員の皆様におかれましては、これまでのご経験を生かして多方面からご意見を賜り、本市の部活動がより充実した内容となり、生徒をはじめ、保護者、地域、学校関係者にとって満足度の高いものとなるようご協力をお願い申し上げ、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

次に、委員の皆様より自己紹介をいただきたいと思います。次第をめぐっていただきますと名簿がございますので、そちらの名簿順に従いましてお願いしたいと思います。須崎委員様からよろしくお願いいたします。

〈各委員様の自己紹介〉

○事務局

ありがとうございました。なお、松江市からの出席者につきましては、レジユメの2ページ下段のとおりとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、会長・副会長の選出を行います。要綱の第5条に従いまして、会長副会長を一人ずつ委員のご選任により選出することとなっております。どなたか立候補する方はいらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようですので、事務局案をご提示いたしましてお伺いしたいと思います。会長を須崎委員に、副会長を青山委員にお願いしたいと考えますが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。それでは、委員の皆様から賛同を得られましたので、須崎委員に会長、青山委員に副会長をお願いしたいと思います。それぞれを代表いたしまして須崎会長、ご挨拶をお願いできますでしょうか。

○須崎会長

はい、会長に就任しました島根大学の須崎と申します。よろしくお願いいたします。着席のうえ挨拶をさせていただきます。部活動地域展開に関しまして、様々な地方におきまして改革が進んでいるところが多くございます。例えば神戸市であれば、平日休日ともに部活動を廃止した状態で地域クラブに転換しているということがございます。また、東京であれば渋谷区、そういった地域でも部活動を地域クラブの方に移行しながら活動しているという状況がございます。また、その中でいろんな意見を集約しながら、例えば子どもたちに対するワークショップを開催しながら意見集約を進めている地方団体も様々あります。その中で見えてくる問題としては、いかにスポーツの場を、もしくは芸術の場を学校から外に移すといった機会、場所の変更ではなくて、いかに子どもたちがスポーツでしたり、文化芸術活動にいかに触れていく機会を保障していくか、そしてその中でいかに大人たちが、なぜ子どもたちがそういったスポーツに触れる、もしくは文化芸術活動に触れていく機会が必要なのか、そういったところを十分議論していく必要があるかと思っております。こういった中で、こういった協議会が含まれる中で、委員の皆様方から様々なご意見をいただきながら、松江市にとって持続可能なあり方というものを見つけていければと思っております。 本日もよろしくお願いいたします。

○事務局

須崎会長、ありがとうございました。ここから議事に入ります。要綱の第6条により、会長の方が議長になりますので、須崎会長、よろしくお願いいたします。

○須崎会長

はい。それでは議事に入ります前に、本日の会議につきまして、松江市情報公開条例及びそれに基づく審議会等の公開に関する要項の規定により原則公開といたしますが、本日予定されている項目の中で非公開の基準に当てはまるようなものはございますか。

○事務局

ございません。

○須崎会長

それでは、本日の会議については公開とさせていただきます。では、議事に入ります。議題1について事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

失礼いたします。学校教育課保健体育係の指導主事 常松といいます。よろしくお願いいたします。私の方から、まず最初に松江市立中・義務教育学校における学校部活動の地域展開・地域連携に係る方針についてご説明させていただきたいと思います。

令和8年3月に松江市中学校・義務教育学校における学校部活動の地域展開・地域連携に係る方針の方を策定いたしました。基本方針としては2ページ目をご覧ください。令和8年度から令和13年度までの6年間を改革実行期間と設定し、この期間内にまずは休日の部活動において原則全て地域展開の実現を目指していくものとしております。移行の形態といたしましては、地域のスポーツ・文化芸術団体が主体となって活動を進めていく地域展開型を基本としておりますが、受け皿の整備が困難な地域や種目等については、当面の間、部活動指導員等を配置した地域連携型での実施など、地域の実情に即した柔軟な対応を検討していきたいと思っております。

今後の取組計画につきましては5ページの方に記載しておりますが、まずは令和8年度には部活動地域展開推進協議会の設置、地域展開に向けたモデル地域・モデル部活動の選定、地域クラブの認定制度の検討、構築、関係団体との連携、児童生徒、保護者等のニーズ把握の方を行っていききたいと思っております。今後進めていく主な取り組みといたしましては、6ページ、7ページの方に記載してありますように、市全体で取り組む項目として10項目を挙げております。また、各学校が取り組む主な取り組みについてまとめております。個々の取組につきましては、まだまだ検討すべき課題が非常に山積みしております。例えば運営主体や実施団体の整備でありますとか、指導者の確保とか、会場への移動手段についてなど、非常に課題が山積みしております。これにつきましては、この本協議会を中心に、委員の皆様からのご意見をいただきながら、一つずつ具現化していきたいと考えており、それに合わせてこの本方針の改定も随時行う必要があると考えております。私からの説明は以上です。

○須崎会長

それでは、先ほどの説明がありました松江市の方針につきまして、委員の皆様方からご質問等があればお願いいたします。なお、ご質問される際に関しましては、お名前と合わせてご発言をいただければと思います。

委員の皆様いかがでしょうか。委員の皆様方からご意見をいただくと、それによってまた変わっていくと思いますので、それぞれご意見をいただければと思います。

そうしましたら、私の方から一点確認をさせていただければと思います。

5ページ目の地域展開・地域連携について、今後の取組計画というところを見ていただきたいんですけども、一応今後の取組の方針という形で示させていただいているんですけども、これを例えば今後より多くのコーディネーターを配置していくとか、もしくは

は国が示しているものであれば、地方公共団体内の体制整備をどうするかといったところを決めていく必要があるかと思います。例えば松江市においては、こういった地域展開の団体として松江市教育委員会が全て担うのかどうか、もしくは松江市役所内で何かしら新しいそういった課を作りながら推進していくのか、そういったところについて計画があれば説明していただければと思います。いかがでしょうか。

○事務局

はい。その点につきましては、まだ検討中というところで、明らかになっておりませんが、やはり全国的な事例の方を見ますと、市直営型の進め方でありますとか、あるいは第三者機関への委託型、あるいはもうそれもせずに地域クラブとしてどんどん認定をしていってそれぞれが独自で活動するパターン、そしてそれぞれをつなぎ合わせたハイブリッド型と、様々な形が今全国的にも取り上げられています。では松江市として、どの形が一番ふさわしくて、どの形が今後継続してできるのかというところは、まだこちらの方としても固まっていないところですので、それにつきましては早急に決めていって進めていきたいと考えております。

○須崎会長

ありがとうございます。そういったところを決めていただかないと、例えば令和8年の方では地域クラブの認定制度等の検討構築というところにもなっておりますし、例えば令和8年度からモデル校地域活動等の選定で、令和9年度から実際の実証活動、そういったところも様々なところが増えていくということがありますので、どこが主となって活動していくかということが明確になっていかないと、例えば協議会の方で担っていくってなってしまうたら、地域クラブ認定をするということのも多大な業務量になってくるかと思いますので、そういったところも決めていただければいいかなと思っております。

はい。私の方から以上です。皆様方からいかがですか。

○松本委員

一つお聞きしていいですか？

モデル校の選定ということなんですが、もう実際今年度からスタートしていっちゃるということなんですが、例えば運動部であればどの競技とか、あるいは文化部であればこれとこれというふうな、なんかそういう年次計画で、そういうモデル校の選定の計

画があるか、あるいはもう実施していらっしゃるならば、そういう状況、またあるかもしれないんですけど、教えていただけると。

○事務局

はい。この協議会の協議の2番目に示しておりますが、今年度より合同練習会を企画しておりますので、そのところでご説明をさせていただきたいと思っております。

○松本委員

わかりました。

○須崎会長

はい。ほかの委員の皆様方、ご意見いかがでしょうか。

ちょっとお話戻りますが、例えば松江市の構造ということ考えた際に、例えば渋谷区であれば、渋谷区の方が業務委託をして、渋谷区のスポーツ協会の方に委託して全部そこになっているということがございます。例えばそういった業務委託して運営するということも一つあるのかなと思うんですけども、例えば渋谷区の場合であれば、スポーツ部活動の全ての渋谷区が業務委託をしていて、その全ての部活動に関して参加する学校ごとに人を配置して、実際に運営と指導者の配置ということを行っているんですけども、例えばそういったことを松江スポーツ協会の方で担うこととか、現状可能かどうかというのを教えていただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

○湯町委員

現状ですね。できるとかできないということはこの段階でなかなかお答えするのは難しいかなというふうに思っております。今の松江スポーツ協会の体制から考えると、現状のままではまず無理です。かなりのスタッフがいると思うんですが、今のスポーツ協会の体制で言いますと、いわゆる体育館等の指定管理を受けております。松江スポーツ文化振興財団、その職員が1名と、あとは、市のOBと言いますか、それを2人の3名の体制でやっておりますので、この現状ではまず無理だろうなと思います。それと松江スポーツ協会に加盟している団体を考えた時にですけれども、かなり現時点で高齢化が進んでおりまして、自らの団体を運営するのに精一杯という感じを受けております。ですから、現状で受けれるかどうか、私どもの事務局の体制、それと加盟している団体

の状況を考えると、なかなか簡単にできるとは言いづらいものがあるのかなというふうに感じております。以上です。

○須崎会長

お答えいただきましてありがとうございます。

○岸本委員

お願いします。あの今のことに関連するんですけども、あの市として、今まで学校の先生方たちがこうしていただいていたわけですが、それが地域に展開するという、その辺のコスト管理的なことはどのようにお考えなのでしょう。

○須崎会長

事務局お願いします。

○事務局

コスト管理の面ですけども、やはり一部保護者負担というところの方は国の方も示しておりますので、一部分は保護者の方に負担をしていただかないといけないかなとも考えておりますが、国の方もあの補助事業といたしまして、生活困窮家庭等に対する支援の方の補助メニュー等も国は全面的に支援をするということをスポーツ基本法の方に記載がされておりますので、そちらのものを活用しながら、できるだけ負担がないようなことを進めていきたいんですけども、具体的にその辺のコストが、一体この今松江市に現存している部活動が全て地域展開した時にどれくらいのコストがかかるのかっていうところ、まだ計算をしたことがないので、具体的な数字をちょっと今この場で出すことは難しいんです。

○岸本委員

地域展開ということが地域の皆さんもいろいろお考えになっておる時期に差し掛かってきたんじゃないかと思えますけれども、その中で私が知っているクラブなんですけども、今年から完全にクラブ化されました。その第一の理由は何かと聞きましたら、指導者の確保だと。というか、時給なんぼで指導者を雇うんですね。そうでもせんとク

ラブ、そのクラブ自体が活動自体が維持できませんよということで、いろいろ議論する中で、そういうクラブ化することによって、月謝的なものを収めてもらって、指導者にきちっとお金を支払うというような形を取られております。で、今まで学校の先生方が例えばやっておられた、これは単純な話ですけど、何時間やられたっていうのが出てくると思うんですね。それかける、まあ一般的に時給なんぼというので、まあこの想定はいろいろあると思いますけど、やられて単純に出せばそこでどれだけのお金、人件費がかかっているかというのは出てくるはずなんですよ。それが例えば教員という方の中でいろいろ埋没してしまったようなところもあるかもしれませんけども、そういったことは把握できることだろうし、把握しておかないとなかなか難しい部分もあるんじゃないかなと思います。そういったところで、これ一つの意見として、あの、ちょっとそれが一番ちょっと気になってるところで、最近ですね、またあの調査ができる可能であるとお願したいなというふうに思っております。

○須崎会長

松江市の事務局の方がいかがでしょうか。この点につきましては。

○事務局

部活動に具体的にその先生が何時間ってところの数値がどれだけ取れるかっていうところがちょっとまだわからない部分はあるんですが、検討して、もし早急にそういうことがわかれば計算をしてみたいと思っております。

○須崎会長

はい。最初に例えば青山委員、この件につきまして、学校の方でも把握されていると思います。それはいかがでしょうか。実際、部活動の指導した際に教員に対して手当っていうのは払われているということです

○青山委員

休日の部活動については4時間以上いくらか2時間、今年からですかね。2時間、3、4時間以上についてはいくらか払うというのが出てますが、現実平日は全くありません。今部活動手当が出ているのは、休日の部活動の2、3、4時間以上が出ているところですね。

○須崎課長

はい、ありがとうございます。

○上田委員

失礼します。中体連会長上田です。中体連としてやっぱり注目も高いので、いろいろな方からご相談を受けたり、自分も前向きに考えていく中で、やはりその先ほど会長さんおっしゃったように、運営の主体が学校であってはいけないというところがやはりすごく引っかかっていて、私たち学校長が最終決断できない。ここに運営の主体を持っていて、えっと、いろんな運営をしていくっていうか、学校が支配するっていう、その一番核になる部分がやっぱり定まってないので、なかなか決めきれないなっていうのが、今本当に踏み込んで考え出した時に一番困ったなって私自身が考えています。なので、その先ほど他県の市ではスポーツ協会さんがやっておられたり、本当に業務委託で民間さんがやっておられたりっていう地域があるんですが、松江に関しては現実問題なかなかそこは難しいところはあると思うので、教育委員会さんが中心となって、そのあたりの組織をまず決めていただくことが、これが進む第一歩なのかなって、ここ数ヶ月ちょっと加速的に話を進めていく中で、すごく実感をしているなというところで思っています。それが決まると、なんか少しずつ前に進めるんじゃないかなというふうに痛感をしているなというふうに思っています。で、まあ私も今八束学園なので、小さい学校なので、休日、どこかでお願いをして活動していく中で、やはり先ほどおっしゃったようにお金の問題が出てくると、学校はここで手を引きますよ、これからは地域の方に行ってくださいってなった時に、今まで子どもたちに負担がなかったものが、一気に少なからずともお金がかかっていくということに、なかなかこう、学校としては保護者の方に、じゃあもうこう決めます、決まりましたからお願いしますって言いにくい。突然ってなると、やはりこう、タイムスケジュール的なもの、何年には完全にこういうふうに移行していきますよっていうのを示していくことは必要なのかなっていうのを特にすごく思っています。今私は義務教育学校にいますので、特にあの通常の小学校から中学校へ行くと、そこで学校がスポッと変わってしまうので、あ、中学生になったらお金がかかるんだねっていうところになっていくのが、義務教育学校ですとずっと上を見ているので、ちょっと前までは無料だったのが急にお金がかかっちゃうねっていう印象が保護者の中にもあるのかなって思ったら、やはり早めにお伝えをしてあげる必要があるのかなと。これが完成するのが多分今の小学校3、4年生ぐらいからもうそんな風になっていくと、3年生、4年生の保護者さんが7年生、8年生、9年生になった時は、今のこの子たちと違って土日のところが地域展開になる分、ちょっとその指導が学校と離れるのでお金がかかりますよみたいなところがお伝えできると覚悟ができるじゃないですけど、そういうのもあるのかなと思っています。先のあの費用のことの援助が受けれる受けれない問題も、じゃあどこが間に入ってそういう申請をするのか、手続きをするのか。どこが窓口になって申請をしていくのか、そういったところも早めのところで形

作っていかないと、その場になって慌てるのかなっていうふうなことは、最近実務を考えた時に、悩みが増えてきました。以上です。

○須崎会長

ありがとうございました。例えばスケジュールの明確化でしたり、保護者向け、またいろんな関係団体に向けた文化団体向けのアナウンス等といったところも必要になってくるかと思いますが、その点いかがお考えでしょうか。事務局の方。

○事務局

はい、もちろんやはりできるだけ早くスケジュールを明確にすることが第一だと思っておりますが、先ほど上田委員さんがおっしゃったように、まずはやはり運営の仕方をどうしていく主体というところで、やはり責任のところが今は学校部活動なので、各学校というところで責任があるんですけども、やはり地域展開になってくると、一番そのところが根本になってくるのかなと思います。まずそこを決めて、その後スケジュールを出していかないといけないかなというのは痛切に感じておりますので、できるだけ早急にそこら辺は教育委員会とも市長部局とも話をしながら進めていきたいと思っております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。例えばそのスケジュール感としてはどの程度で見込みがあるものかなと思うんですけど、例えば実際この認定クラブの制度というところを考えていくと、あの、基本的には今年度中にある程度計画が大体決まっとかないと、どこが受付して誰が研修するのかとか、まあ誰が間に入ってお金を徴収するかとか、そういったものがなかなか決まらないかなと思うのですがいかがですか。そういったところのスケジュールはいかがでしょうか。

○事務局

なかなか具体的な時期を申し上げにくいんですけども、できるだけ早い段階でというところで、案としていくつかの形を提示できたらなと思っております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。やっぱり皆さん、えーと、こちらの方針に関しましてご意見いかがでしょうか。じゃあ上代委員さん。

○上代委員

えーと、部活動指導員やってます上代と申します。えー、四捨五入して約10年やってます。いろいろなものが見えてきて、ちょっと危ないなと思うところもあって、ちょっと2つ申し上げたいと思います。1つ目は、5ページにありました取組計画の2番目で、市は平成8年度より～というのがありまして、3つ目のポチ（・）で、学校は校区内の関係者による協議会等を必要に応じて設置し、とありました。で、この地域展開にしていくなのを、学校がまあコーディネーターになって地域を巻き込んで決めていくのかどうかというところはようになっていくかというところがすごく心配です。なぜ心配かというと、先ほど岸本委員も言われたんですけども、私今、あの原田さんが所属しておられるバスケの関係者ですが、岡山のクラブチームをもった子、あの指導者から、埼玉のクラブチームをもった指導者と話す機会がありました。岡山の子は20代です。で、1ヶ月のクラブ会費が1万円、20人集まれば20万がその子の給料になります。個別で動いてます。で、埼玉は法人化をして会社を作って、そこで給与を発生させて、いろんなバス輸送なんかも計画的にやっています。でも、そんなところがまず乱立したら、公的な機関が前もって始めたところを集めて、え、違うよって言えなくなるんじゃないかというのが、まあ怖さというか、危険性というか、もう手遅れになってしまうんじゃないかというところが一つ目です。二つ目は広報についてなんですけども、したがって、そういうことをいろんな方々に、こういう松江市は動きを今始めてるんだということを早くお伝えしないといけない。例えば個別のクラブをやっという人たちが、勝手にスポーツセンターにポスター貼って、年会費なんぼで始めますと言って、指導者は誰それがいますとかいうのも時々見かけますが、そういうのが本当に乱立した後で、実際松江市はこう動いているという、地域の方針に従ってくださいって言われたら、もう手遅れになるというか、混乱が起きる。したがって、こういうことを早めに、あの、地盤の方々に広報していく必要があるんじゃないかというのが2点目でございます。ちょっとこのところ近年2、3年になって急に展開が早くなっていて、島根県内でもそういう先ほどお話しした岡山や埼玉のクラブチームのような動きがバスケで見られているもので、あの、お伝えしたところです。以上です。

○須崎会長

ありがとうございます。それに関しまして、事務局の方向か返答ございますか？

○事務局

はい。広報の方は考えております。今後はこの方針につきましても、本市のホームページに掲載して周知をしていきたいと思っております。今、それに合わせまして、この取組計画にもありますように、認定クラブ制度というところがあります。国の方も示しておりますが、あくまで今ある部活動の活動時間であるとか、活動理念というようなものを踏襲した活動が地域クラブ認定制度に該当するものになるのかなと、こちらの方は考えておりまして、先ほど上代委員さんが言われました、専門的な指導を受けられるようなスクールのものはこちらの認定クラブという形とはまた別のものと市の方は考えてはおります。競技力向上を主として目指す子にとっては、そういうところの選択が一つの選択肢であり、そこまで競技力に特化したものではないけど、その競技自体を楽しみたいとか、文化芸術活動を楽しみたいといったような活動、そういうところのクラブの方をこちらが認定していくってというようなイメージなのかなと思っております。今の活動もどちらかというところ、勝利至上主義ではなく、どちらかで体験的なところに重きを置いた指導の方を多分各学校の先生方がなされていると思いますので、そういった思いをベースにしたものを広く広報していくことが必要かなと思っております。

○上代委員

はい、ありがとうございます。先ほど言われたようなことを勘違いしている人がいっぱいいるということです。はい。だから早めがいいと思います。お願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。

○須崎会長

はい。そうしましたら、他に皆さんよろしいでしょうか。また、最後の方で、ご質問等の時間を取りたいと思います。その時、挙げていただければと思います。

それでは議題2の方に移らせていただきます。そうしましたら、議題2につきまして事務局より説明の方をお願いいたします。

○事務局

はい。それでは私の方から続きまして、学校部活動の現状についてご説明をしたいと思います。今年の5月に各校に対して部活動の調査を行いました。まず全体の結果とい

たしまして、資料の2の1、1枚目をご覧ください。今年度、運動部に所属している生徒の数は2,590名で、こちらは全体の約53.2パーセントとなっております。文化部に所属している生徒は1,022名で、全体の21パーセントとなっており、全体の加盟加入率は74.1パーセントとなっております。全体表の下にありますように、昨年度、一昨年度と同じように調査を行っておりますが、昨年度と比較いたしましても、加入率につきましては1.4パーセント減少しております。具体的な人数でいきますと76名減となっております。

一方で、社会体育等のその他の部活動以外の活動の加入率につきましては、10パーセントと今年度になっており、昨年度と比べて1.6パーセント増加しております。人数は78人の増という形になっております。次に資料の2の2につきましては、今年度、中体連の大会参加を認定された団体に所属している生徒の一覧となっております。今年度よりバレーボールが3団体とサッカーの1団体、柔道の1団体が新たに参加認定を受けておられます。全松江市内で認定を受けている団体は16団体ございます。昨年は15団体でしたので、1団体増という形になっております。そのうちサッカーのグラシアス湖東というものにつきましては、昨年度まで湖東中学校のサッカー部だったものがクラブ化したものとなっております。続きまして、資料2の3につきましては、中体連の大会参加認定等をされていない団体に所属している生徒の競技別一覧となっております。これにつきましては、学校からの報告をもとに作成しているため、所属団体一覧とちょっと被る団体があります。競技別で見えていきますと、バスケットボールとサッカーにつきましては、団体の所属がいずれも百名を超えており、昨年度と同程度の人数が所属していますので、非常に割合的に多くなっているという形が今年度も見受けられます。また、昨年度の調査では報告のなかった右側の下から4つ目のゴルフでありますとか、一番下のアーチェリーといった、そういった新たな競技というのでも形も報告されております。このように、その他の所属や不明な数も含めたりすると、大体487名の生徒が部活動以外の活動に参加しているという形になっております。ただし、これは運動部の競技の把握になりますので、例えばピアノですとか、文化的なものに取り組んでおられる生徒さんというところの数は、こちらに挙げておりませんので、そこを含めるともう少し割合の方も高くなってくるかもしれません。いずれにせよ、若干ではあります。が、部活動から部活動外へ活動をする生徒が少しずつ増えていっている現状にはあるかなと思っております。以上となります。

○須崎会長

はい。そうしましたら、先ほど説明にありました部活動の現状につきまして、委員の皆様方からご質問、ご確認があればお願いいたします。

○岸本委員

はい、お願いいたします。数字の話ですけど、2の1資料のゼロと書かれているところと空欄がありますが、どういう違いがあるんですか。

○事務局

これにつきましては、報告のデータ上、男女の部活があった場合でも、男子があったら片一方女子はゼロ人であることで、で、どちらもない場合は空白になっております。

○岸本委員

はい。

○須崎会長

はい。他の委員の皆様いかがでしょうか。

○上田委員

訂正でもいいですか。

○須崎会長

お願いします。

○上田委員

今ちょっとデータをいただいているんですけど、多分体育主任の方が各学校で子供たちの実態を確認をして入力しているので、ややちょっとその辺の認識の違いで人数の入力とか数の方が違うんじゃないかなっていうところは、完全に正確ではないということを皆さんご理解ください。それから、飛び込みの中体連と認定していないので、多分普通のもう1枚の2の3の方に行くんじゃないかなと。

○事務局

ありがとうございます。

○須崎会長

そうしましたら資料2の2の飛び込みの松江ダイビングクラブから資料の2の3の方に移動するということによろしいでしょうか。

例えばこの資料2の1の方で、令和6年度から令和8年度にかけまして、部活動の加入率がちょっと減少傾向にある一方で、大会参加所属では部活動外の加入率が増えているということがございますが、例えばあの上田委員にお聞きますが、具体的に中体連の中でこういった学校部活動外の方の参加が増えているデータがございますが、中体連としてはどういうふうに参加人数を増やすのか、もしくは何かしら、例えば競技団体、競技種目によってこの枠がこう変わっていく中で、参加要件とか、そういった中でこういう部活動の加入、部活動外の加入率が増えていったのか、そういったところに何かあれば教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○上田委員

はい。中体連の方がこの中体連認定の社会体育のクラブが大会に出られるというふうになって数年経つんですが、その当時から比べると、やはり数はとても増えていっているなというふうには思っています。実際には、それまでのところも、社会体育の方で普段は練習をしているんだけど、中体連の大会に出る時には、同一の学校であればその中学校の名前で出場するという種目もあったりはするので、大きく人数が変わったりとか、そういうわけではないですけども、この中体連の認定の社会体育のクラブで出られるようになってから、あの普段は学校で出ていない子も、中体連に学校の名前で出られるということは、学校から教員を引率で出したり、監督に出したりしないといけないといった辺りで、学校の方がなかなかその教員の配置や人を派遣するということが難しいという実情もあったので、その辺りについてはある意味でのいい関係性というのが出来上がったのかなと、構築できたのかなというふうには思っています。ですので、大会現場でも社会体育の指導者さんたちも大会運営の方には協力していただいているので、その辺りについては大きな混乱はないかなと、大きく変わったところはないのかなというふうに思っています。ただ、今年度から全国中体連の方の要綱も変わりまして、地域認定クラブ、まあこれから松江市もそういうふうになってきますが、地域認定クラブについても中体連の大会に出場することが可能になってきましたので、その辺の認定クラブが今年度全国大会にどれくらい出てくるのかなというものが、来月の大会後のところで数として興味あるかなというふうに思っています。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。そうしましたら、お集まりいただきました委員の皆様方から、この資料に関しましてご意見、ご確認いかがでしょうか。

○上代委員

さっき言われた地域認定クラブとこの中体連認定の社会体育とはイコールなんですか？

○上田委員

イコールではない。

○上代委員

将来的にはどうなるんですか？

○上田委員

将来的には、今ですね、日本中体連としてはもう別物になってくるんですけど、これが地域展開が進んでいった時にどうなるかっていうのがまだ全く明文化されてないですし、地域クラブの認定の仕方も市長さんとかによって全く違うので、それがイコールになっていくかどうかについては全く不確定です。

○上代委員

先ほど事務局が言われた強化ではなくて、子供たちのスポーツの普及とか、そういうところを重点に置いたところが基本的に地域認定クラブに入っていく可能性が高いと考えてよいということですかね。

○上田委員

ある意味そうなっていくと思います。

○上代委員

わかりました。

○須崎会長

はい。そうしましたら、他の委員の皆様方、ご意見、ご確認いかがでしょうか。

○原田委員

1つ教えてください。市P連原田です。先ほどの方針の方ともかぶるんですけど、ここにあるような、その中体連認定の社会体育、それからその他の社会体育の団体、こういった既に活動しているこの団体を、ちょっとまとまってないですけど、これを育てていくっていうのがその方針になっていくのか、それとも全く新たに受け皿を作るっていう方向にもっていくのか、その辺がちょっとまだ私も整理できてなくて、そののところが1つ教えていただきたいです。

○須崎会長

その点につきまして、事務局の中で何かあれば教えていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○事務局

なかなかその線引きっていうところの難しいところではあるんですけど、今もうすでに、例えばバスケットやサッカーである既存のそういうクラブチーム等は多々あります。先ほど申し上げた通り、やはりそのクラブチームの中でも、その競技志向が特化したものは、どちらかというところが考えているものとは違うのかなと考えておりますが、あくまで部活動の延長線上にあるような活動をしている団体も中にはあると思いますので、今後、認定要件を満たしているような団体でありましたら、今ある既存のところをまた育てていくのもあります。もちろんそこで足りない部分、今はここに書いてあるものだけど、バスケット、サッカー多いですが、やはりその他の競技につきましてはやはり少ないのが現状ですので、その他の競技につきましても、どんどん増やしていかないといけないので、その両方を両輪で回していかないといけないかなと考えてはおります。

○原田委員

ありがとうございます。

あと1ついいですか。すいません。これ社会体育じゃないですか。これは文化活動の場合は何て言うんですか？

○事務局

ちょっと隣に文化の専門家がいるので、ちょっと代わっていいですか？

○事務局

はい、失礼します。この四月からコーディネーターという形で関わらせていただいております藤井と申します。よろしくお願いします。社会体育に対してという中ですが、文化芸術活動というような表現で大体まとめられているというのが、今のところは目にすることが多いです。

○原田委員

はい、ありがとうございます。例えばその他の文化芸術活動ってなると、例えば一般的なピアノ教室とか、ああいうのもなんか見ようによっては入ってくるんじゃないかなと、その他の社会体育のところを見てたら思ったんですけど、その辺の線引きっていうのは、あの社会体育と同じような考えでいいんですかね。

○事務局

そうです。例えば認定クラブ要件を出した時に、ピアノ教室の方がその認定クラブとして申請を出すかっていうところになるんですが、もし申請を出されて、この認定要件に従って認定されていくと思います。全国的に見てもなかなかその文化芸術活動に対しての申請状況ってあんまり見えてこない部分が多くてですね。今既存にある部活動以外の文化系のところがすごく参入していくような現状は、あまりないのかなと。一部あのプログラミングでありますとか、そういう活動を新たに取り入れているっていう自治体はございます。そういうところは文化芸術活動の1つとしてあるのかなと思いますが、あくまでそれは認定申請をして認定されればという形になるのかなと思っております。

あとは実際この後も説明しますが、アンケートを実施した上での子どもの実際のニーズが高いものが、やはりこちらが今後進めていかなければならない優先事項になるのかなとも考えております。

○原田委員

はい、ありがとうございました。

○須崎会長

はい。そうしましたらよろしいでしょうか。また、引き続き、この後ご質問いただければと思います。

そうしましたら、議題3の方に移らせていただきます。議題3につきまして、事務局より説明の方をお願いいたします。

○事務局

失礼いたします。資料の3をご覧ください。先ほどの方針にもありましたように、今年度より児童生徒、保護者等のニーズの把握を行っていく必要性がございます。というところで、本年度、児童、生徒、保護者、教職員を対象にアンケートを実施することにしております。資料3の1が対象は小学校5、6年生と中学校1、2年生、あるいは義務教育学校の7年生、8年生向け、そしてそれぞれ小学生の保護者、中学生の保護者、最後に教職員向けのアンケート案の項目を今挙げております。児童生徒につきましては、主にニーズ把握を中心としてアンケート項目になっております。保護者につきましては、地域展開に関する考えについてというところで、どういう思いがあるのかというところで項目を挙げさせていただいております。教職員については、現在の部活動の顧問の現状と今後の地域展開について、教職員のご意見の方を把握していきたいと思っており、それぞれ聴取の方を行っていきたいと思っております。なお、アンケートにつきましては、Googleフォーム等を利用したオンライン上でのアンケートを計画しておりますので、またそれぞれの項目についてちょっとご確認いただきながら、それぞれのお立場でご意見がありましたら、この場でお聞きしたいと考えております。

○須崎会長

はい。そうしましたら、こちら小学生向け、中学生向け、保護者向け、教員向けという、そういった内容からなっております。それぞれ委員の立場から、こういった内容があったらいいのか、そういったところをちょっと検討していただければと思います。

少し私の方から一点確認ですが、一応これ小学生であればニーズの把握というところでしたが、ニーズの把握ということは、実際それに向けて進めていくということになるかと思うんですけども、例えばこのスポーツが多かった、ここの芸術活動が多かったといった場合は、もう松江市が積極的にそれを推進していくという捉え方でよろしいのでしょうか。

○事務局

積極的に推進していくというところではなかなか難しいところではありますけれども、実際子どものニーズとして、その多分希望が多かった活動というのは、やはり中学校になっても続けていきたいものでありますので、その続けていきたいものをなくすような形にはならないと思うので、一つの材料として、見ながら進めていくことでは間違いないと思っております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。そうしましたら、委員の皆様方それぞれの立場から内容を確認していただきまして、こういった内容と、もしくはちょっとこの内容がちょっと難しいということがありましたら、ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

そうしましたら藤原委員、PTAの方から来ていただいております。例えば保護者向けの方で、小学生と中学生の保護者向け資料3の3、3の4ということがございますが、一応事務局の方としてはこういった地域展開に向けての説明文書についたリーフレット等を配布しながらこのアンケートを回答していただくということでしたが、例えばどうでしょうか、保護者に対して、例えば地域展開をする保護者のご立場であれば、こういった内容があるといいのか、もしくは、こういったことがあるとより松江市に対してこういった保護者の意見が伝えやすいのかといったものがあれば教えていただきたいんですけど、いかがでしょうか。

○藤原委員

はい、すいません。PTAの藤原です。今、私中学生の子がもう高校に行ったので、ちょっと中学校の方の様子はわからないんですけど、今小学校五年生で一応クラブチームでちょっと卓球の方をさせてもらってるんですけども、この情報を見ると、やっぱり卓球はその、その地域移行のチームって全くないじゃないですか。もう部活動だけっていうような感じがあって、そういう場合はこう、中学校行った時、こうやって地域移行になった時、どういう風になるのかなっていうのがちょっと私の中の思いで、多分子どもはそのまま卓球を続けていくのかなというように思ってますので、その地域移行になった時にどういう風になるのか、湖北中ではちょっと違う別個のクラブチームがあるっていうのは知ってるんですけども、他の学校とかになるとやっぱりどういう風になるのかなっていうのがちょっと疑問に思いました。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。なかなか地域クラブってなっても、まず自分たちのその先がどういう形で受け入れてるのかとか、実施母体がなかなか明確にならないとなかなか伝えにくいということかなと思いますが、またその点について事務局の中からこういう形でより具体性をもって保護者向けに説明できるようなことってございますかね。例えば説明文書を作ってリーフレットを作成するという方法があるかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○事務局

なかなかその具体的に、卓球が中学校に行ったらこうなりますっていうところはなかなか示すのは難しいかなと思うんですけども、休日は部活動という形ではなくて、地域であるクラブ活動等に参加するというような説明の文書やものは必要かなと思ってはおります。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。そうしましたら原田委員の方からも、保護者の観点からこの内容に関しましてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

○原田委員

はい。市P連の原田です。そうですね。ざっと見た感じ、その部活動を地域展開することを前提とした設問が多いのかなと思って見ておりました。例えば増やすなら、こういったその地域クラブ、どんな地域クラブに参加したいとか、そういう中、これからの制度づくりにつながるような設問があると具体的なことが出てくるのかなというのを今ちょっと思ったところです。はい、以上です。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。いかがでしょうか、事務局の方。

○事務局

例えばその競技志向に特化したもののようなクラブとか、ちょっと楽しみとか、友達、友人関係を増やしたいようなクラブとか、そういうのが志向的な質問があった方がいいというふうなご意見でしょうか。

○原田委員

そうですね。まあこう、保護者と子どもがどういうふう考えてるかわかんないですけど、まあそういった、あの、何て言うんですか、選択肢にない選択肢で記述式のような、そういうのがあってもいいのかなというところです。

○事務局

わかりました。自由記述みたいな形でこのクラブのイメージということですね。

○須崎会長

はい、よろしいでしょうか。例えばそういった形の保護者の、まあ、クラブ、地域クラブに向けてこういった要望等っていうのがあるか、より広くとっていただけるかなと思います。

○上田委員

すいません。

○須崎会長

はい。ではお願いいたします。

○上田委員

お願いします。アンケートの方なんですけど、時期とか決まってますかね。

○事務局

3年生が引退した後、9月以降のところを計画しております。まだ案の段階ですので、これまた練り直したところをまた校長会の方でまたお諮りをしたところで、その後アンケートの方を実施するような形を計画しております。

○上田委員

はい、ありがとうございます。聞き方とか、多分これでちょっとアンケート取るとデータが収束しないかなと思ったような捉えが子どもたち出ないのかなと思ったり。そもそも論、地域展開というのは何のこと？ っていう状態なので、アンケート等ができたところで、学校関係の方でちょっと相談をさせてもらって、子どもたちがわかりやすかったり、思うデータが収束しやすいような取り方を、ちょっとせっかくなので一緒に考えさせていただいたらなと思ってますので、よろしくお願いします。

○須崎会長

学校関係で、青山委員、いかがですか。

○青山委員

失礼します。湖北の青山です。子どもたちが地域展開をどういうふうイメージしているかっていうのを、正確に僕も理解しているわけじゃないですけども、多くの中学生が思っているのは、平日やっている部活は土日はまあ学校の先生以外でまた教えてもらえるので、あの平日やってる部活と違う種目を選ぶというような発想はあまりないのではないかなと思ってます。というのは、あの、ほとんどの子が、まあ楽しんでやりたい

と思いつつも、やっぱり勝ちたいという思いをもっているんで、やっぱり大会を目標にやっている子が多いので、平日やっている部活と土日が変わるというような発想はあまりないのではないかなと思ってます。はい。そういうイメージは子どもももっているというふうに思っていたいただければいいかなと思ってます。はい。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。ちなみに、こういったアンケートを取る際に、何を子どもたち、まあ保護者もそうですけども、結局地域クラブが何なのかっていったところが明確になってないと、なかなか回答しづらいということもありますし、松江市教育委員会の方で聞きたい内容と、実際子どもたちが思っているデータが乖離することもありますので、いかにそういったところを丁寧に伝えていくかという、そういったところもちょっと内容を検討していただければと思います。いかがでしょうか。

○松本委員

はい。アンケートのことですけど、文化協会ということで、通いたい地域クラブということで、美術といってもこう、子どもたちがどんなふうに、まあ自分の学校の今の美術部の生徒さんのね、あの作品を見ての回答になるのかなと思いますし、なんかちょっといろんな分野がある。あるいはなんかこう、アニメとか、あるいはあの絵をやってみたいとか、まあいろいろ思いをもってる子どもたちもいるんじゃないかな。工芸についても幅広い分野があって、工芸もこれも今工芸部がある学校の生徒さんは、そういった生徒さんが作ったものを見てのイメージになるのかなと思いますが、それでまあこのアンケートが、あの、どうのこうのじゃないんですけど、まあ例えば文化部、まあ吹奏楽とか合唱とかはわかりますけど、書道、書道もいろいろあるんだな。まあ、例えば文化系のクラブを選んだ子については、まあマルするんでしょうけど、どんなものをやりたいのかとかですね、ちょっとまあ参考までに見てみたいな。個人的なこれはあれなんですけど、そんなことを今時の子どもたち、あの文化のね、それこそもう手で書かずにパソコンでやって、そういう時代の芸術もありますんで、ちょっとそんなこともあのやってみたいのかなみたい。まあちょっとそんな感じで、子どもたちの、こう、そういったやってみたいものみたい、ちょっとこう書いて、書く欄ぐらいあってもいいのかなというふうに思いました。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。そういった欄、例えば資料3の2であれば、その⑦のその他に書くような形になるでしょう。入力としても。その他のところは。

○事務局

自由記述という形にしたいなと思っております、そこで拾えるかなと思っております。そこに今あげてる項目は、今松江市内に開設している部活動をベースに考えているところです。例として部活動を挙げてみて、その他っていう形を考えております。項目も多いかなと思っておりますが、子どものニーズを幅広く拾うためにはこれぐらいあってもいいのかなと考えております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。松本委員よろしいでしょうか。

○松本委員

はい、すいません。

○須崎会長

はい。そうしましたら確認いかがでしょうか、こちらの。

そうしましたら、岸本委員。

○岸本委員

S P O R T I V O東出雲の岸本です。あの地域展開の地域というのは、ここで言う学校単位を想定していると思いますが、そうですか？学校単位での地域。

○事務局

今そこは悩みどころであって、学校で単独でできる学校と、やっぱり学校規模が小規模な学校だと多分近隣との合同での実施というところも出てくるかなと思っております。

○岸本委員

そういう中で、あの、この先生向けのアンケートの中では、あなたは指導者を希望されますか？という欄がございます。で、保護者宛のところ、その地域の保護者の皆さんは地域にお住まいでいらっしゃる社会人の皆さんですから、地域展開するときが一番ネックになってくるのはやはり指導者の問題だと思う。そういうのがその地域におるおらんかみたいなことを、なんかちょっと掘り起こすことができないかなということも思ったところで、もし可能であればですね、その指導者の在り方とかですね、過去のことについても、なんかちょっとヒント的なものでもここで探れたらいいかなというふうにも思ったところで、もしできればお願いしたいなと思います。

○須崎会長

いかがでしょうか、事務局。

○事務局

ちょっと検討して、例えば保護者さんのアンケートに、もし地域展開になった時に指導者とかお手伝いできるかどうかの人数を把握をする必要があったらいいんじゃないかってご意見でしょうか。

○岸本委員

そうなんです。

○事務局

それも検討を含めて行っていきたいと思います。

○須崎会長

はい。そうしましたら、竹内委員、お願いいたします。

○竹内委員

はい。えーと、説明についてのことでなくてですね、このアンケート全般のことなんですけど、これまでもお話が出てたかどうか、ちょっとわかってないところもあるのですが、先ほどオンラインでの回答、G o o g l e フォームなどを使ってということが

あったんですが、これは紙ベースの何かを配ってやるっていうことは想定はされていないということでしょうか。

○事務局

今、小学生とかにつきましては、この紙ベースにQRコードをつけたような状態で配って、設問の質問項目とQRコードをセットでやろうかなと計画はしております。

○竹内委員

はい、ありがとうございます。それからもう1つ、えーと、大体その回答の数をですね、どのくらい集めることを想定されているのかなっていうことをちょっとお聞きしたいんですが。

○事務局

令和4年に実施したアンケートだと、大体8割強ぐらいの回答は児童生徒、教職員はあったんですけど、ちょっと保護者の方の回答率が低かったので、具体的な目標は何割かかっていうところはないんですけども、協力していただける方とかは興味関心のある数値として参考になるのかなというところは考えてはおります。

○竹内委員

分かりました。ありがとうございます。

○須崎会長

はい。そうしましたら、こちらのアンケートに関しまして、ご意見いかがでしょうか。

また後ほど、またご質問や質疑の際にまた確認いただければと思います。

それでは議題4の方に進めさせていただきます。そうしましたら、議題4につきまして、事務局より説明の方をお願いいたします。

○事務局

では失礼いたします。中海圏域3校による合同練習会についてご説明をしたいと思います。資料の4をご確認ください。中海圏域の方には、中学校、義務教育学校が合わせて3校ございます。八束学園、本庄中学校、美保関中学校で、今年度の部活動調査によりますと、資料にありますように、八束学園には運動部が3つ、卓球、女子バレーボール、野球、文化部が1つ、吹奏楽。本庄中学校は運動部が3つです。男子バレーボール、女子バレーボール、野球、そして文化部で合奏。美保関中も運動部が3つ、文化部が1つ、運動部が女子バレーボール、陸上、野球で、文化部の方が吹奏楽となっております。で、このうち、今年度なんですけども、本庄中においては、今野球部が湖北中学校さんと、女子バレーボール部が島根中学校さんとそれぞれ合同チームで今年度松江ブロック大会の方に参加をしておられます。同じように八束学園につきましても、野球部が八雲中学校との合同チームで今年度のブロック大会の方に出場しています。で、そこでこの各校の距離も一応中海圏域という中海の周りにある3校ということで、距離も比較的近くで、部活動数や部活動の所属している人数の規模も似ているこの3校を対象に合同練習会を実施して、実際にその合同で活動を行う際の効果でありますとか、課題についての検証を行ってみたいと考えております。

資料の2枚目をご覧ください。今年度対象となる部活動は運動部、文化部からそれぞれ1つずつ選定をしております。緑と赤で囲っているものに関してです。運動部につきましては、野球部、文化部につきましては吹奏楽と本庄中の合奏部というところを想定しております。こちらの人数につきましては、9月以降、1、2年生のみでの活動になった場合の人数になっておりますので、1枚目のものと若干人数が変わってきておりますが、野球部の方が3校合同で男子19名、女子4名の23名、そして文化部につきましては男子6名、女子22名の合計28名で合同練習会という形を計画をして想定しております。この練習会の指導については、学校の先生ではなく、外部指導者の方を配置して指導を行う予定としております。現在のところ、今、市が任用しております部活動指導員や地域指導者の方を想定して、今後調整を図って指導していただける方を見つけたいと考えております。

まずは初めての実施ですので、月1回程度実施することができたらいいなと考えていて、4回程度の実証を行いながら、その後振り返り、子どもたちのアンケートの方もを行い、効果を検証します。その結果を基に来年度以降の活動につなげていきたいと思っています。また、練習の活動場所についてはまだ想定の段階ですけども、各学校や近隣の施設の方を利用した活動を行いたいと思っています。いずれにしろ松江市としてこういう形を実施するのが初めてなので、課題や効果を見つけようという形で、今年度この2つの野球部と吹奏楽部を例に挙げて進めていきたいと思っています。

野球部につきましては、スポ少の段階では今合同でチームをつくっております、合同で活動をしている素地ができているという点と、吹奏楽につきましては、今現在、本庄中学校さんと美保関中学校さんは実際土曜日になると本庄中学校さんの生徒が美保

関中の生徒と一緒に吹奏楽の練習を何回かしておられるので、いきなり何も知らないところから始めるより、ある程度素地ができているところから始めて、今後もしこれが継続的に行えるようになっていけば、合同部活動その先の地域クラブが最終的にゴールにはなるんですけども、そこに行けるのではないかとというところで、合同部活動的なところから始めて、今後地域展開をしていく形が1つのモデルケースになり得るかなと考えておりますので、今年度この3校をモデル地域に挙げさせていただいて、今後協議を進めていきたいと思っております。今後のスケジュールにつきましては3枚目に載せておりますけども、6月のところで、ここの3校の校長先生の方にはこの計画の方をお話をしております。今後7月、8月のところで原案の方を市が作成いたしまして、今後また保護者や生徒の方に周知をいたしまして、11月以降4回程度実施できたらなと考えております。以上となります。

○須崎会長

はい。そうしましたら、先ほどの説明にありました合同練習会につきまして、ご意見、ご質問等があればよろしくお願いいたします。

○岸本委員

先ほどスポ少の野球はこの3チームだということがありました。スポ少の展開を見ますと、学校の先生などで地域の指導者がやっておられます。この3チームは確かに今年、本庄も加わって三チームでやっておられます。その他にもですね、合同、違う校単位での合同的な活動をするチームがかなり今増えてきています。もともと松江20何チームあったのが、今18、9に減ってきてますんで、その中減ったということは合同化してきたと。地域展開の一つの大きなヒントになるんじゃないかと。学校的な小中一貫ということが学園展開しておられますので、部活というか、こういう地域展開のそういった面では非常に大きなヒントになるんじゃないかと思っておりますので、この野球とバレーの吹奏楽、そういったところは小学校、中学校のつながりというのもちょっと考慮していただく中での注視して見ていただければなというふうに思います。以上です。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。いかがでしょうか、事務局。先ほどの岸本委員のご意見について。

○事務局

先ほど岸本委員が言われましたように、小学校段階でのスポ少からのつながりってやっぱり子どもたちは大きいなと思っていて、そのスポ少で頑張っていた子たちは例えば競技を続けたいけれども、学校が離れるとそれが分かれてしまうというのが現状はあるかなと思いますので、中海圏域は野球に関しては3校が合同で進めていくという形ができておりますので、小学校からのつながりを考えた今後の活動の展開にもつながると考えます。また。その他合同でスポ少が今後行っていくような地域がございましたら、そういう形をベースにするのは一つの方針としてはあるのかなと考えております。

○須崎会長

はい。岸本委員よろしいでしょうか。

○岸本委員

はい。

○須崎会長

そうしましたら、こちらの合同練習会につきまして、ご意見いかがでしょうか。

そうしましたら私の方から一点確認ですけれども、最初の在り方、こちらの方針のところの5ページのところになりますが、スケジュールの取組計画のところなんですけれども、一応こちら実際にこの実証効果検証していくということになるかと思うんですけど、その場合、この主な取組内容のこの小さいポツのところのモデル校地域部活動等の実証活動がもう前倒しになっているという認識でよろしいでしょうか。

○事務局

なかなか今年度の四回だけで実証ができるかというのは難しいですので、まずは1回合同練習会という形が実際にできるかどうかというところを検討いたしまして、来年1年間をかけてさらに深い実証の方を行っていただけたらなと思っています。あくまでその体制づくりでありますとか、実際行う場合のこちら側の準備とか、そういう運営の仕方についての学習のための4回というイメージもございますので、実際の実証は多分来年度以降になるのかなと考えております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。委員の皆さま方から、ご意見、ご質問についてお願いいたします。

○岸本委員

すいません、説明があったかもしれませんが、この合同練習会というのは練習会場ってというのはどこか固定だったでしたか？それともどこか回っていくとか。

○事務局

今のところはできたら固定の方がいいのかなと考えてはおるんですけども、なかなかその適した、特に吹奏楽に関しては楽器の移動等もございますので、どこが一番ふさわしいのかっていうところはちょっと今後詰めていかないといけないのかなと思っているので、そこも学校の校長先生や学校とも協議をしながら、そのローテーション的に今日は本庄中で1回とか、八束学園でしますとか、月を変えた方がいいのか、もう競技は決めて、例えば美保関のグラウンドを貸していただいて、そこでやるっていうのがいいのかっていうところも含めて、検討をしていきたいなと思っております。

○岸本委員

その際にですね、今までだとその自分とこの学校だから練習参加できたって子もいると思うんですけども、当然参加できない子も出てくると思うんですよ。そういったまた実態の方も、今回のこの実証で把握していただければなというふうに思います。以上です。

○事務局

合同練習会は強制ではございませんので、希望を募って行い、実際の部員数に対してどれくらい参加があったかというのは、もちろん実証として効果を見たいと思っております。

○岸本委員

合わせて、なぜ参加できなかったのかっていうことも。

○事務局

はい。その面のことも含めてっていうのが出てくると思いますので、そこをどうしていったらいいかっていうこともまた考えていきたいと思っております。以上です。

○須崎会長

他に委員の皆様方からこちらの内容でご意見、ご質問いかがでしょうか。お願いいたします。

○上代委員

失礼します。資料の4ページに学校活動と地域クラブ活動の比較の表があるんですけども、先ほど合同部活動は発展すると地域クラブ活動という認識でいいですか？どっちかという、左側の学校部活動という認識でよろしいですか。

○事務局

まだ合同練習会につきましてはあくまで部活動をベースにしておりますので、学校部活動になるんですけども、いずれはですね、もしそれが可能で、地域でその指導者が見つかり、先ほど言った運営主体がきちんと固まった上で、そのベースでできるのであれば、地域クラブ活動という形の右側のものになっていけると思っておりますが、実際は今後その実証次第かなと考えております。

○上代委員

そこで追加で左端の項目に参加できる生徒は学校部活動は誰で、地域クラブ活動は誰でっていう書きぶりはないかと思ひまして。

○事務局

あの表の比較のところで参加主体というか、参加者という記載ですね。

○上代委員

左端の項目の一番下でもいいので。

○事務局

付け加えという形ですね。

○上代委員

対象となる子どもたちは一体どういう子たちになるかっていうのが。

○事務局

基本的にはその学校の部活動だとその学校に所属している生徒なんだけど、地域クラブになるとその所属は問わない、それぞれの地域で活動してる生徒っていうような形の書き方でよろしいですか。

○上代委員

そうですね。

○事務局

分かりました。ちょっと検討したいと思います。

○上代委員

そうしていただくと少し整理がしやすくなる。

○事務局

はい。

○上代委員

ありがとうございました。

○須崎会長

他に委員の皆様方、ご意見、ご質問いかがでしょうか。実際にこの松江市の方で初めてこういった合同練習会の実証効果を検討するということになりますので、こういう観点から、例えば効果検証する際にこういったことを確認してほしいとか、もしくは事前準備する際にこういったことも気をつけてほしいといったことがあれば、それぞれのご立場からご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○原田委員

市P連、原田です。えーと、まずいきなり地域クラブにせずに、その合同練習会っていうのは、この松江市の事情に合ってるのかなと思いましたし、人数不足の解消っていうメリットもあるので、非常にいいのかなと思います。ただ、年に4回っていうのがちょっと少ないかな。効果を検証するには少ないのかなっていうところと、ちょっと聞き逃したかもしれないですけど、送迎は保護者になるのでしょうか。

○事務局

基本的には保護者送迎になるのかなと思っております。そこも含めて、多分保護者から送迎は苦しいという意見も出るかと思います。一応送迎も考えたんですが、保護者送迎そこもやっぱり一つの参加できなかった課題の一つとして検証ができるかなと思っております。

○原田委員

はい、ありがとうございます。そういう意味で効果検証、効果課題検証という項目にその保護者の負担感とか送迎時間とか、その辺も入れてもらえればと思います。以上です。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。そうしましたら、他の委員の皆様方がいかがでしょう。

お願いいたします。

○上田委員

すいません。たびたび失礼します。このターゲットも学校なので、どういうイメージで今私たちの方が捉えてやっていこうかしているところをお話しできればというふうに思っているんですが、もともと野球は合同チームを組んでいます。で、先ほど1枚目のところで、本庄と湖北の野球部が合同チーム、八束学園は八雲中と合同チーム、そして美保関中は単独チームというところで、ブロック大会まではやっておりましたが、3年生が引退しましたので、秋以降のところは八束学園と美保関の合同チーム、それから、本庄中は今まで通り湖北中との合同チームということになった関係で、この3つが大会も一緒に出るわけではないというところで、毎週練習をすることはやはり難しいということで、今回、月に1回程度、教育委員会を発起人的な形で合同でやってみるということで、実証実験をしていこうというふうになりましたので、これが4回というふうになりました。これが、この3チームが常に合同チームということであれば、毎週でも全然できるんですけども、今回こういった事情で回数としては少なくなっています。で、普段から合同チームでどちらかの学校で練習しているというのがあの普通のチームなので、保護者の方もその実情はご理解いただいておりますので、現地集合現地解散という格好で、違う学校の場所で練習をしているという実態に、まあ無理なくできるような形を教育委員会の方に提案をさせてもらったところです。えっと、吹奏楽につきましても同様でして、本庄中学校がもともと合奏部という部活動しかなくて、3人、4人というところで、子どもたちのニーズの中から、あの、たくさんの中で演奏してみたいというふうに、あの声もありましたので、美保関中の方にお声がけをさせていただいて、最初にこの2校と一緒に練習を始めております。この2つの学校については路線バスがあるので、子供たちが自分で行って帰るということ是可以するんですが、バス代も結構高い地域なので、この辺は今後の課題なのかなというふうに思っています。八束学園については、本当にバスでの移動がなかなか難しいので、これについても、今後のことを考えていくと、移動手段や、そういった経済的な面については、考えていかないといけないのかなというふうに話をしているところです。で、3番目に、地域展開につなげていくことを目指していくというふうに1文上げていただいているんですが、まだちょっと私たちも先ほどこう3つが一緒になった時に、じゃあ運営の主体はどこなのか？1個のクラブができるのか？とか、それぞれの学校にクラブができて、それが一緒にやるのか、そこの辺も全く見えてこないところなので、まあ、地域展開につなげていくという

よりは、まあ、こういうやり方があるのかな、やっぱり難しいのかなっていうところを、まあ検証するという意味でのモデルケースだというふうに、校長の方は理解しておりますがいかがでしょうか。

○事務局

はい。先ほどよりまだこちらサイドの運営主体がどういう形も決まってない状態で、そこはなかなか言えないので、まずはこういう形で合同で活動をするっていう環境を構築するというのが一番かなと思っておりますので、そのような認識でこちらの方も進めていております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。学校の現状ということをお教えいただきました。ありがとうございます。他に皆さん、委員の方からご意見いかがでしょうか。

小室委員、例えば音楽の観点から、例えばこういった吹奏楽部合奏っていうのが合同されるという形になった際には、こういった点、今後いろんな課題が出てくるかと思うんですけども、例えば事前にこういったことがあるといいなとか、もしくはこういったところをまた検証してもらいたいって、そういったところのご意見いかがでしょうか。

○小室委員

失礼します。松江二中の小室です。あの吹奏楽とか合唱とかっていうところの意見になるのかなと思うんですけども、この今の合同練習会のパターンですね。複数の学校が寄り集まってするパターンと、本校も例えば吹奏楽部にしても合唱にしても、そこそこ人数はいるので、合わさってやるという方向性よりも、子どもたちも職員も、もし地域展開、地域移行という話であるならば、休日にどなたかが指導されるのであろうというふうなイメージを強くもっていると思います。ですので、同じような枠組みがどこの学校にもとか、どこの地域にもなかなか適用しづらい、ということがあろうかと思っています。我々職員の方にも、県の方からの通知文で、兼職とか兼業とかのいろんな情報が入るようになって今ですので、これから職員の働き方みたいなところもどんどん変わっていくだろうとも思っています。どのようなところに着地していくのかっていうのが本当に見えづらくて、地域とか、その学校の取り巻く、先ほど地域もどの辺を地域っていうんでしょうねってお話もあったんですけど、地域展開っていうことになったときに、本当に小さな校区とか、例えば松江をいくつかのブロックに分けてというふうなのを地域とするのか、そういったところもすごく考え方だろうなと思っています。吹奏

楽の方の中国地区の理事会議に参加した時に、他県で、非常に行政主導で進めておられる地域展開っていうのも伺ったんですけども、やはりそこにははっきりとこう地域を分けて、ここにはこの部活の拠点を置きますというような形で進めておられるところもありましたし、休日の地域移行からゆるりにつながっていつてますっていうところもあって、本当に今バラバラです。その中で一つ、あ、こういうことも起こるんだなと思ったことは、例えば先ほどあの子どもたちがその活動に楽しみを見出したり、これから豊かな人生を送るために、この活動が自分には合ってるなっていうふうを選んでいく、部活動であるという側面と、やはりみんなで力を合わせて大会等に向かっていくんだっていう側面と両方あるんですけども、大会運営とかをするにあたって、地域展開が進んでいるところは、休日の例えば職員の役員派遣とかですね、そういったところで非常に問題が出てきて、大会運営ができなくなるので、大会やめてもいいですかみたいな現状が起こっている地域もあるということも伺いました。本当に考え出すといろんな課題があるなということを思っていて、スポーツの方もそうでしょうし、合唱と吹奏楽においては、合唱は体があって、ちょっと楽器とかお部屋があればある程度可能かなと思いながら、吹奏楽はじゃあ楽器の問題とか音を出せる環境とかどうするんだろうっていうところも合わせて課題だろうなと思っているところです。すいません、まとまりませんでした、以上です。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。吹奏楽活動におけるいろんな課題っていうのを挙げていただきました。実際、この吹奏楽、合唱の方も、詳しくはまだこれから検討していくということでよろしいでしょうか。

○事務局

地域あるいは学校がベースになるのではないかなとは思っておりますので、そちらをベースに考えていきたいと思います。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。そうしましたら、他に委員の皆様方、内容に関してはいかがでしょうか。

先ほど岸本委員の方からご発言がありました、例えばスポーツ少年団でそれぞれの地域が交流しながらやっているということがございますが、実際、福田委員にお聞きしたいんですけども、実際どの程度の子どもたち、地域によって、そういった地域間でのスポーツ少年団というのは活動を結構積極的に行われているものなのでしょうか。それとも、

やはり例えばその学校区の中でのスポーツ少年団の関わりが多いのでしょうか？松江市としては。

○福田委員

はい、失礼します。松江市スポーツ少年団の福田悟といいます。前回、スポーツ少年団としてこの地域展開がなされる時に、こういった姿勢、態度、あるいは改革していかなければならないだろうかということで、私たちも勉強していくのをお願いしたいというふうなことで、可能なところでは、実は私のところでも、スポーツ少年団では中学生、高校生、大学生も実際にはおります。ただ、地域展開の形になっているのかどうなのかという吟味もできてませんので、これからも、ちょうど質問しようと思っていて、前回お話しした時に、スポーツ庁の地域展開の方針の中で認定するということがあったので、前回、中体連の方からお聞きしました。今回も大変詳しい中体連の資料があって、それと同時にスポーツ少年団が認定を受けるためにはどうしたことを学べばいいのかということをお教えいただきたいというお話をしたんですけど、実は市町村で認定ができるということでしたので、今先生のご質問にお答えするよりもむしろお願いになってしまいましたけど、市町村でスポーツ少年団に対する地域展開の認定ができるということですので、何か私たち一緒にワークショップでも行わせていただくとよりいいかなと思って、先生のご質問に答えずについあの、お願いになってしまいましたけど、そういうことでよろしくお願いします。

○須崎会長

今、福田委員が言われたのは、スポーツ少年団と松江市教育委員会等が連携しながら、何かしらワークショップ等を行っていきたいということによろしいでしょうか。

○福田委員

その通りです。

○須崎会長

ということですが、いかがでしょうか。事務局のほうとしては。

○事務局

またお話を聞きながら進めていけたらいいなと思っております。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。委員の皆さま方からいかがでしょうか。

○福田委員

はい。それじゃあ、提案を一つさせていただきたいと思います。あの背景はですね、時折お話しさせていただきました、本日お見えになっているスポーツ振興課の上山課長さん以下のプランニングによります、第53回の日本とドイツとのスポーツ交換会が今年の夏に行われます。ドイツはご承知の通り、地域クラブのモデル国家ですので、日本へ100人ほどの団体が来ます。その一部が初めて松江市に8月の3日から7日までやって来ます。で、そのメインプログラムがディスカッションでして、今年のテーマがジュニア・シニアスポーツの未来をデザインしようというテーマです。で、そのプログラムの中のディスカッションが有意義になるようにということで、今回の会長の須崎先生に先般、事前に、参加する学生、あるいはホームステイを受けるところの青少年を対象に事前指導をしていただきました。その時に、ホームステイの保護者であったり、あるいは青少年であったりが、この今ここでは本当に直接部活動の地域展開について本当に一生懸命取り組んでいらっしゃるんですけど、なかなか一般のスポーツ愛好者であっても、なかなか一般の人たちは部活がなくなるそうだというぐらいの認識しかないので、本当はこういう、スポーツの未来はなるんだというふうなお話を須崎先生のご講話から皆さんよくわかったというか、非常に好評でしたので、私も今日は皆さん熱い思いで取り組んでいらっしゃるお姿を拝見するだけで、本当にこれから先どんな姿の日本のスポーツになるのかなということについて、須崎先生のまたご講話がこの次でも、この協議会でもお聞かせいただければいいなというふうに思って、ご提案というか、ご検討をお願いしたいなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

○須崎会長

はい、そうしましたら提案という形で、私自身も部活の研究をしております、そういった中で部活がどういった時代背景を含めて、そういったことを大学生に向けた、そういったことをお話しさせていただいたということがございます。そういった中で、提案の通り、次回以降のところで問題なければ、私の方で部活動のそういった部活動の歴史等含めて、なぜ地域展開しなきゃいけないかとかといったところ、一度共通認識させ

ていただきたいと思いますが、事務局の方はそういった点につきましていかがでしょうか。

○事務局

では、また第2回今後開催しますので、そのところで講話という形というか、協議という形で計画はしたいと思いますので、またご連絡したいと思います。

○須崎会長

はい、ありがとうございます。先にそういった形で。

○福田委員

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○須崎会長

はい。そうしましたら、一旦私の方でまとめ確認をさせていただいた後に、また全体の方で皆さんの方からご意見、ご確認をさせていただきたいと思います。本日議題として、松江市の地域連携に係る方針の確認、また部活動の現状について、またアンケート、そして合同練習会の実施についての報告、確認かつ協議が行われました。その中でやはり問題となってくるのは、どういうふうに具体的に進めていくかといった、松江市としての運営団体の明確化といったものがやはり課題になってくるのかなと思います。そういったところがないと、例えば具体的にどういうふうに運営していくのか、そういった中で問題が起きたときにどこに確認すればいいのか、そういったところが実際実働になってくると、なかなか難しい面がございますので、そういったところをより早急に決めて、検討、松江市の中で決めていただくっていったところが必要になってくるのかなと思います。それでそこが明確になってきますと、今後の取り組みないし周知方法、そういったところもより確実になってきて、松江市の保護者、子どもたち、また地域に住む方々が松江市の部活はこう変わっていくんだ、そういったところはより認識されていくのかなと思います。あと一方、松江市におきまして、合同練習会という実施を進める中で、いろんな課題もしくは現状といったところを把握できるといった大きな一歩になってくるかと思います。そういった合同練習会の実施を通しまして、1つの活動にはなってきますが、1つの見方として、こういった方法、こういった課題も出てくるよねと、そういったところのデータが出てきて、それがまた松江市の中で、各学校でこ

ういったこともできるかもしれない、各地域でこういったやり方があるのではないか、そういったところにも進めていくのかなと思っております。

そういったところで様々な課題等も明確になってきたと思いますので、次回のところを向けまして、いろいろ協議を進めていただければと思っております。以上で協議の場を終わりたいと思います。全体として委員の皆様方からご意見、ご確認あれば、そちらで確認したいと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。無いようでしたら以上で議事を終了いたします。ありがとうございました。

○事務局

須崎会長様ありがとうございました。本日の推進協議会では多くのご意見いただき、誠にありがとうございました。会長様の方にまとめていただきましたけれども、いろいろな課題がある中で、この地域展開を推進していく主となる組織はどこなのかというところ、そして運営主体はどこかというところについて宿題をいただいたかなというふうに思っております。また、こちらの方でもまた協議していきたいと思っております。次回の推進協議会につきましては、10月を予定しております。詳しくは後日お知らせいたします。では、最後に青山副会長様からご挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○青山副会長

では失礼します。座って申し訳ありません。本日は委員の皆様、それぞれのお立場からいろいろな意見をいただきまして、活発な意見交換ができたことを大変ありがとうございました。中学校側としても、部活動については、子どもたちが豊かな人生を送るために大変貴重な場だとは思っておりますが、反面、教職員の負担感についても最近はいろいろ課題になっているかなと思っています。なんとか各学校で工夫しながら持続可能な状況でやっているというのが現状ですけれども、今後、地域展開に向けて、保護者の方、あるいは地域の皆様にご理解、ご負担をいただく面も多くなってくるのかなというふうに思っていますので、また各学校でも、今日のような機会が出されたような意見をまたまとめて、保護者の方にも広めていかんといけんかなというふうに思っているところです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。以上をもちまして、第1回松江市中学校部活動地域展開推進協議会を閉会します。皆様、本日はご多用の中、ありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。